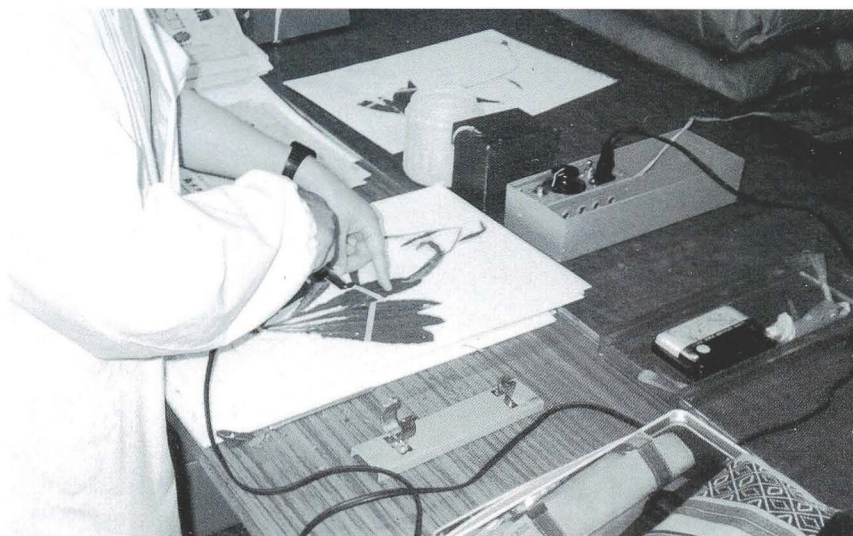


新しい博物館がめざすもの — 活動の抱負



さくよう標本の台紙貼り—膨大な量の標本を貼るのはたいへんな作業だ。

植物グループ

木場英久 (当館学芸員)

スタッフ

植物グループには、6人のスタッフがいます。コケ・キノコなどの非維管束植物が専門の生出、維管束植物の分類が専門で、カヤツリグサ科やタデ科など花の目立たない植物が得意な勝山、イネ科植物が専門で、染色体の観察もしている木場、植物の生態が専門の田中の4人の学芸員と、データベースの登録などの標本の整理を担当している高橋・掛札の2人の非常勤職員です。

「この草、何だろう?」「〇〇という植物はどこで見ることができますか?」などの質問に、われわれがお答えします。また、自然観察会などで、お会いすることもあるでしょう。今後ともよろしく願いいたします。

収蔵庫

現在、当博物館の標本庫には約16万点の植物標本が収蔵されています。1点1点の標本には、いつ、どこで、誰が採集したかがわかるようにラベルをつけて整理しています。そして、種類ごとにまとめて、近縁な種類が近くになるように分類順にならべて棚にし

まっています。ときどき、防虫剤を棚に置いて虫に食べられないようにしています。これは、手間のかかる仕事ですが、貴重な標本を何百年も維持し誰でも調べたい種類の標本をすぐに見られるようにするために必要な作業です。

また、ラベルのデータはコンピュータに入力されているので、たとえば、ある狭い地域で採集された標本のリストや、最近採集されなくなった種類のリストを作ることもできます。日本国内には大きい植物標本庫がいくつかありますが、当館ほど標本のデータベース化が進んでいる標本庫は他にないでしょう。

学芸員が採集した標本の他にも、学術的に意味深いと判断された標本は、今後も活発に受け入れて行きたいと思えます。

神奈川県植物誌調査会

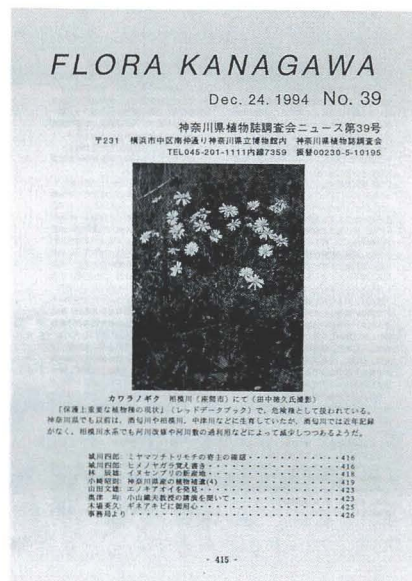
約16万点の標本のうち、半分は『神奈川県植物誌1988』(神奈川県植物誌調査会編)の証拠標本です。この植物誌は、当博物館の母体である神奈川県立博物館と横須賀市博物館、平塚市博物館、そして植物愛好家の県民の皆さんが協力して調査を行い1988年に発行した本です。実物百科展示室でも1コーナーを設けてこの本を紹介しております。この調査会では、西暦2000年

を目標に植物誌の改訂を目標に活動を続けています。植物グループでは、この活動に積極的に参加、協力していく方針でいます。

展示室・ミュージアムライブラリー

総合展示室では、植物が陸上での生活に適応していく過程と、陸上植物がもっとも繁栄している熱帯多雨林(巨大な板根、ランなど)や草原についてまた、神奈川の植物の由来や特徴を紹介しています。実物百科展示室では、「神奈川のコケと地衣」「神奈川のキノコ」「神奈川の四季の彩り」「溪流沿いの植物」「神奈川県植物誌1988」などのコーナーで植物の展示を見ることができます。とくに、「神奈川の四季の彩り」では、春夏秋冬と季節が変わるごとに、展示品を取りかえる計画です。

また、ミュージアムライブラリーでは、自分でコンピュータを使って、県内の植物に関する情報を調べることができます。名前のわかっている植物はその写真や形の特徴を見ることができ、名前のわからない植物は、現在は被子植物の樹木についてのみですが、特徴を入力して名前を調べることができます。知りたい植物がありましたら、ぜひ調べてみてください。



神奈川県植物誌調査会の機関誌 FLORA KANAGAWA 一年2~3回発行される。